

## 朝の礼拝

聖書 ヨハネによる福音書 15章1-5節 (新約聖書198頁)

1 わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。2 わたしにつながっているながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。3 わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。4 わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながってなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながってなければ、実を結ぶことができない。5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。

## 奨励

### ぶどうの枝

夏も近づく八十八夜

野にも山にも若葉が茂る

あれに見えるは茶摘みぢやないか

あかねだすきに菅(すげ)の笠

有名な「茶摘み」の歌です。立春から数えて八十八夜、それがちょうど茶葉の収穫の時となります。それで茶摘みの歌となりました。今年は5月2日でした。毎年この時期、茶葉の収穫を控えて遅霜の被害を心配する農家のために、気象庁は「遅霜予報」を出しています。全国で唯一、静岡県だけに出す予報です。それも5月10日までとなっています。いよいよ夏の始まり、初夏となります。

どのような地域に住んでいても、人は自然の営みと深いつながりで生きています。生きているというよりも自然の中で生かされていると言った方がいいでしょう。どんなに科学技術が進んでも自然に抗うことはできませんし、またその自然から豊かな恩恵、恵みを受けて人は生かされています。とても小さな経験ですが、まだ娘と息子が幼かった頃、家の庭に大きなぶどう棚がありました。夏になると小さな紫色のぶどうの実をつけて、少し甘酸っぱく楽しませてくれました。

でもぶどう棚が与えてくれた恵みはそれだけではありませんでした。夏が近づくと、あっという間に庭先一面に青葉を生い茂らせ、家の中に入る日差しを遮ってくれました。そして涼しい風

だけが家に入り、ぶどう棚はまるで天然のクーラーのようになるのでした。一方、冬になると一枚残らず落葉して、か細い枯れ枝のようになってしまいました。すると、冬には少ない日差しが家の中まで降り注ぎ、冷えた室内を優しく暖めてくれるのでした。そして、地中の根は水分や養分を吸い上げて、枯れ枝のような一つひとつの枝にそれを送り、やがて春から初夏にかけて再び新芽が息吹、青々とした葉を生い茂らすのでした。

英和はこの日本の森羅万象、悠久の自然の営みにあって、英和生一人ひとりがイエス様につながるひとつの枝だと信じ、共に聖書の言葉に養われ、日差しの強い夏には一つひとつの枝が葉を広げ互いに日陰を作るように、そして北風の吹く冬にも互いに水分、養分を分かち合うように、友人と、先生と共に学びを重ねています。

今週から各学年の研修旅行、また運動会など学校行事、そして部活動の夏の大会も続きます。英和スピリットの下、ますます皆さんが豊かな実りの時を迎えることを祈っています。

祈祷 祈りましょう

わたしたちを愛し、わたしたちを励まされる主よ。あなたは私たち一人ひとりをあなたの枝として豊かな実りを与えて下さっています。どうか今日、一日もあなたを信じ、互いに励ましあい、歩ませて下さい。また、今、様々な理由で就学、就労の困難な生徒、教職員のために祈ります。どうかその艱難を耐え、あなたの慈しみを悟り、共に感謝を献げる日をひと時でも早くお与えて下さい。主イエス・キリストによってお願い致します。 アーメン